

世界での 気候変動の 議論と

地域での 脱炭素の 取組

とき

2021

12/6

月曜日
MON

じかん

15:00~17:00

ところ

ニセコ町民センター
大ホール

申込不要
参加無料



ニセコ町は、これまで「環境モデル都市」、「SDGs未来都市」として、環境負荷の低減と地域の活性化の両立を目指し、将来にわたり持続可能な暮らし・まちづくりに向けた取組を行ってきました。さらに、昨年7月には気候非常事態宣言を行い、脱炭素社会の実現を目指し、様々な挑戦をしていくこととしています。

今回の町民講座では、11月まで英国グラスゴーで開催されたCOP26（国連気候変動枠組条約第26回締結国会議）にも参加されている藤野純一さんを講師に招き、COP26での議論やIPCC（気候変動に関する政府間パネル）第6次評価報告書の内容などについてわかりやすく解説いただきます。

また、SDGs未来都市で第1回「ジャパンSDGsアワード」総理大臣賞を受賞している下川町より担当職員をお招きし、その取組を紹介していただきます。

※開催の根拠：ニセコ町まちづくり基本条例第3条 情報への権利



講師

（公財）地球環境戦略研究機関
都市タスクフォースプログラムディレクター

藤野 純一（ふじのじゅんいち）

1972年生、大阪育ち。東京大学博士課程（電気工学）では2100年を見通した世界エネルギーシステム分析に従事。2000年国立環境研究所入所。「2050年低炭素社会シナリオ研究」の幹事を務め、CO2削減に関する政府の委員会に参画。2010年秋からは環境未来都市の委員として自治体を支援。2011年8月から2015年春まで飯館村の復興計画策定に関わる。現在はアジアの国や都市の脱炭素化・SDGs実施に関与。2019年4月からIGESに移籍。気候変動のCOPにはCOP11から継続して出席。SDGsの世界大会の国連ハイレベル政治フォーラムには2018年から参加。主著書・監修に「低炭素社会に向けた12の方策」（日刊工業新聞社）、「マンガでわかる脱炭素」（池田書店）等。



講師

下川町職員

清水 瞳（しみずひとみ）

長野県伊那市出身、米国テネシー州育ち。慶應義塾大学大学院、政策・メディア研究科修了後、北海道下川町役場に就職。学生時代から学内外でSDGsを達成すべく取り組みなど、「Think Globally, Act Locally」を実践するために奮闘。下川町では、入職する以前の2018年12月からSDGsアンバサダーとして町の内部に入り、ハイレベル政治フォーラムを始めとする国連主催の会議で発表する等、町内外へのSDGs活動の普及を担当し続けている。ユース団体、SDGs-SWYの共同代表。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、開催内容を変更する場合があります。

※ご参加にあたっては、新型コロナウイルス感染防止のため、マスクを着用していただくとともに、咳や発熱など体調に不安のある方は参加をお控えくださいますようお願いいたします。

【問い合わせ窓口】

ニセコ町役場企画環境課環境モデル都市推進係

Mail: kankyo-e@town.niseko.lg.jp TEL:0136-44-2121 FAX:0136-44-3500

託児対応可能です！

申込期限：12/1まで